

こんにちは。嘱託員の村上です。4月17日、青森地方気象台が桜の開花を発表しましたね。明日は合浦公園で「青森春まつり」の開会式が行われます。そこで、今回も館内展示「あおもり遊覧2」から合浦公園に関する話題をお届けします。

さて、合浦公園は顕彰碑や記念碑が数多く設置されている公園です。展示を行うにあたって数えたところ、32の碑が確認できました（うち3つは胸像）。図書館8階のパネル展示では、これらの碑の位置がわかるマップとともに、誰を顕彰するものか、どんな出来事を記念して建てられたものかという情報や、碑に刻まれた文字を揮毫した人物についてご紹介しています。

実は、合浦公園には全国的に有名な書家が揮毫したという碑がいくつもあります。例えば、公園正面入口に設置された「合浦公園」という公園名の石標（明治35年〈1902〉建立）は「明治の三筆」と呼ばれる巖谷一六（本名・修）が青森市を訪れた際に揮毫したものだそうです。園内には、ほかにも伊藤明瑞、近藤雪竹（本名・富壽）といった有名書家の書を見ることができますので、ぜひ探してみてください。



巖谷一六が揮毫した「合浦公園」の石標



伊藤明瑞が揮毫した「工藤卓爾君頌徳之碑」



近藤雪竹が揮毫した「斎藤弥太郎氏之碑」

また、合浦公園には書家の顕彰碑も建立されています。それは「小山内暉山翁之碑」(明治 29 年 12 月建立)、「故本間覃山翁之碑」(明治 44 年 9 月建立)、「松聲和濤韻 (宮川逸仙先生報恩記念碑)」(昭和 32 年〈1957〉11 月建立)の 3 つです。しかも、この 3 人の書家には青森県師範学校で書道教師を務めていたという共通点がありました。

中でも、小山内暉山 (1811-1894) と本間覃山 (1857-1909) は師弟関係にあったことから、2 つの碑は隣接して設置されています。



故本間覃山翁碑



小山内暉山之碑

小山内の碑の文字は弟子の本間によるものです。一方、本間の碑の文字は弘前市出身の斎藤主 (1860-1919) が揮毫しました。斎藤は明治 39 年、弘前市に図書館 (追手門広場にある旧弘前市立図書館) を寄附した篤志家の一人で、土木会社を経営していました。本間の碑には「友人」として斎藤の名前が刻まれています。斎藤は本間の葬儀の際に「暉山先生門人総代」として弔詞を読んでおり (『東奥日報』明治 42 年 4 月 7 日付)、小山内のもとで書を学んだ仲間という関係だったようです。

合浦公園で碑を見かけたときには、誰の顕彰碑か、何の記念碑かという部分だけでなく、ぜひ書家にも注目してみてください。そして、図書館の展示も合わせてご覧いただくと嬉しいです。